

明倫

題字：横村正直

平成十五年九月十六日発行
明倫員治連合会公報委員会
発行部数2000部

第5号
03.9.16

「明倫夜話の座」始まる!

明倫学区にお住まいの方々にはさまざまな業種でご活躍されておりますが、普段なかなかじっくりとお話をする機会がありません。この「まち」は歴史と伝統の残る地域で、まだまだ知らない「まち」があります。

地域のことをもっともっと知りたい私たちが、京都芸術センターのご協力をいただき、明倫学区にお住まいの方を中心に、月1回程度話題を提供していただき座談する「明倫夜話の座」を始めました。

まちづくり委員会「夜話の座」担当一同

第二回 八坂神社と明倫学区

(六月二日)

座長 中尾金次郎様(天神山町)

祇園祭三十二山鉾中、十三の山鉾町を抱える明倫学区の祭事委員を永年ご担当いただいている中尾様より、祇園祭を中心に八坂神社の神事についてお話し頂きました。

特に、八坂神社の神輿(みこし)についてはたいへん興味深いお話でした。三基の神輿(四角形の東御座、六角形の中御座、八角形の西御座)のご神体、御霊を神輿に移す神事、神輿を支える組織の説明など、ふだん山鉾を中心に動いている明倫学区にいとかなかなか

接することの出来ないことです。

新年のお雑煮を炊くために「おけら火」を頂くおけら参りについては、大晦日から元旦の夜中に頂くもの思っていました。実は元旦の朝5時に、本殿のお賽銭箱から投げ落とされるオケラの火が本当の「おけら火」と言うことも初めて知ったことでした。



一年の行事については「八坂神社年中祭典及び行事」が資料として配布されました。

「祇園祭は信仰が観光か？」祭りを観る見物人が出来たことは神威発揚し共にハレの日に参加する。「祭りあつ心」を失わず、伝統を継続してゆきたい。と締め括られ、ふだん聞くことのできないお話を伺いました。

第二回 子供の頃の明倫学区

(八月二七日)

座長 加藤やす子様(骨屋町)

寺江信子様(六角町)

東洋一といわれた明倫小学校を卒業された加藤様、寺江様のお二人に学校の様子や子供の頃についてお話しして頂きました。参加された方々も夫々の明倫小学校の思い出話をされました。

当時の校長先生は常に「東洋一の小

学校で勉強していることに誇りを持ちなさい。」と話しておられたこと、講堂雨天体操場の設備、立派な大広間、健全な身体作りのための太陽灯、運動会など多くの話題がありました。

校歌について
は戦前と戦後では異なることがわかり、戦前の校歌をお二人が美しく唱われ、参加された方々夫々の学校の思い出がより深くなつたことと思います。

お正月には登校して式の後、紅白饅頭をもらって帰ることが楽しみで登校も苦にならなかつたとか。

界限の様子についても今では考えられないお話がありました。ご近所の方が馬と散歩されていたとか、道が砂利道で三条通の坂道で荷車を曳く、牛や馬が毎日家の前を通り気の毒なくらいかわいそうだったことや祇園祭の宵山は二三日(後の祭)のみで、駒形堤燈の火はろうそくで風情があつたこと、山の木組みはジャングルジムみたいで子供たちの遊び場だったことなど、ほのぼのとした明倫学区の様子が伺え、楽しいひと時でした。



加藤さん



寺江さん

四本の柱が建ちました。

明倫まちづくり委員会
今年度の明倫まちづくり委員会は四つの取組を柱に進めていきたいと思えます。

「地区計画」の推進

まず一つ目は明倫学区の地区計画の推進です。言葉は難しそうですが、易しく言い換えると「地域の人々がどのような明倫学区にするのか？」を具体的に解るよう、文章や図に置き換えること、と言えば良いでしょうか。

地域の将来は地域の人々によって形作られていきます。皆様方の御意見、御希望をどしどしと委員会までお寄せ下さり、また奮って御参加下さい。

「銚の道」プロジェクトの推進

二つ目は「銚の道」プロジェクトの推進です。明倫学区の特長の一つに祇園祭の十三の山銚町があります。特に新町通りは、七月十七日には全ての銚が巡行します。

明倫学区の各通りはそれぞれに由緒がありますが、まず最初に、新町通りを「銚の道」として、統一したデザイン、ファサード（建物前面）などができないだろうか？といったことを、立命館大学の学生さん達と共に考えていくとしていきます。

新町通りから初め、次々に各通りにまで拡げたいものです。

「明倫夜話の座」の実施

三つ目はこの学区のこと、昔のまちのことなどをよく知るために、「明倫夜話の座」を芸術センター三階で行っています。



さい。

「まちなかを歩く日」の実施

最後に今年も十一月十五日十六日の両日にわたり、芸術センターを中心に「歩いて暮らせるまちづくり」のイベントが行います。太広間ではお茶会、お琴の演奏会、高倉小学校の児童による生花展示会、講堂では婦人部コーラス、織商青年部の着物コンサート。また夜話の座特別講座に、室町通りでは

すでに二

回が終わりました（一面をご覧下さい）。私たちが知らなかった祇園祭の事、昔の明倫小学校の事などなど、様々な興味深いお話が聴け、出席者がますます増えてきております。気楽に御参加下さい。

野菜の市、バザー、そして学生さんらによって芸術センターが風車で彩られます。是非皆様方のゆつくりと秋の日をお楽しみ下さい。

まちづくり委員会 井上成哉

第一回「明倫まち歩き」

明倫まちづくり委員会

まちづくり委員会の四つの取組のひとつである「地区計画」の推進に関する取組として、六月十四日、第一回の「明倫まち歩き」が実施されました。あいにくの小雨模様のなか、明倫学区の方々や、地域に興味のある学生さん（立命）、京都市の職員も交え、約二十名の方が午後一時半に元明倫幼稚園内の自治連会議室に集まりました。

まちづくり委員会から「まち歩き」の趣旨を説明があつたあと、A、B、Cの三班に分かれ、学区の東部（烏丸通～室町通）、中部（室町通～新町通）、西部（新町通～西洞院通）のコースを見て歩きました。



まちかどにはお薬師さん



町家の奥には高層マンションが

第1回 明倫まち歩き スケジュール	
13:30	受付開始（班わけ）
13:40	開会 あいさつ プログラム説明と注意事項
13:50	まち歩きスタート（班ごと） 下の「ヒント」を参考にしてください。 地図に印を付けたところは写真をお忘れなく！
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(ヒント1) 「おもしろい」と思ったところ 「驚いた・新発見」 「この地域らしい」モノ など 「この地域にふさわしくない？」モノ など</p> <p>(ヒント2) 建物の全体や部分、看板 路上やまちばたにあるもの 気に入ったお店 土地の使われ方 まちの景色、色あい など</p> </div>	
15:00	地図と写真のまとめ（班ごと）
16:00	発表（班ごと）
16:30	閉会
<p>注意！ 車には十分気をつけてください。</p>	

子どもをばくむ地域と学校

高倉小学校長 川勝 公一

登校風景。「おぼちゃん、おぼはようございませす。行ってきます。」「おぼはようさん。気付けて、行つといでや。おりこうさんやね。門掃きをしている。近所の方に朝の挨拶をする児童。そして、その児童に温かい眼差しで言葉をかわす近所の方。このような光景が、風習としてまだまだ見受けられる学区・校区であると思っています。

また、その近所の方と児童の母親が町角で出会った時、「お宅のお子さんは、行儀のよいお子たちですね。」と話がはずむのではないだろうか。地域で子どもを育てるといことは、このようなかかわりあいの連続の中で、いわゆる「社会性としてのしつけ」が養われたり、「地域の一員としての自覚」が培われたりしていくことだと思います。子どもたちは、家庭と地域が織り成すこれらの働きかけを受けて、価値観と行動様式を身に付けていくものと考えています。

高倉校の子どもたちは、地域をもう一つの学校として、自分を伸ばす機会に恵まれていると言えます。『こどもでも、いつでも、やさしさと知恵を働かす子』は、はばたく、キラキラえがおの高倉っ子の育成を明倫学区の皆様方と手を携えて推進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

着目点は「おもしろいと思ったところ」、「驚いた・新発見」、「この地域らしいモノ」、「この地域にふさわしくないモノ」などで地図の上に印を付け、写真を撮影しました。

また、「建物や看板」、「みちばたにあるもの」、「まちの景色、色合い」などについても注目し、気のついたことを書き留めたり、写真を撮ったりしました。



みんなで補修中の町家を見る

三時ごろには各班とも自治連合会議室に再び集合、大きな白紙にA、B、C各コースの地図の周辺に、各自が気づいたことや感想のメモ、写真を貼り付け、その日の成果を整理しました。

その後、それをもとに各班ごとに今回の「まち歩き」についての感想や気づいたことを発表しましたが、地域に昔からお住まいの方の視点と、学生さんたちの視点が違つたなど、まちには

様々な見方があることが、改めて解りました。



発見や着目点をマップに整理中

今後の地区計画づくりの基礎資料にするため、このようなまち歩きを重ね「明倫」の課題（マップ）づくりにながていきたいと思ひます。

まちづくり委員会 河野 泰



マップを元に活発な意見交換

第1回

明倫まち歩きのご案内

土曜の半日、明倫学区を歩いてまちを再発見してみませんか！

毎日見なれたまちでも、じっくり見て歩くと、いつもは気が付かないでいたものを発見するかも知れません。

みんなで白地図とカメラを持って歩き、発見したものや明倫にふさわしいと思うところに印を付けたり写真を撮り、それを持ち帰って『明倫マップ』を作ります。

ご家族づれの参加や、明倫学区以外の方も歓迎します。この機会にぜひ一緒に歩いてみませんか。

参加希望の方は、参加希望用紙にお名前をお書きください。
当日の飛び入り参加も大歓迎です。

【日 時】 平成15年6月14日(土)
13:30~16:30頃 小雨決行

【集合場所】 明倫自治連合会 会議室(元明倫幼稚園内)

【内 容】 まち歩き+マップづくり(詳しくは別紙「スケジュール」をご覧ください)

【参加費】 無 料

こちらでポラロイドカメラを用意しますが、デジタルカメラをお持ちの方はご持参ください。

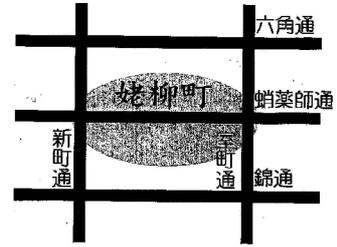
まちづくり委員会では、明倫学区をより安全で美しく住みやすいまち、また、人々が集う活力のある楽しいまちにするために、様々な取組を計画しています。そのひとつとして、わたしたちの「まちの将来像」を考え、明倫学区の実情に沿ったまちづくりのルールである「地区計画」づくりに取り組んでいます。まず第一歩として、明倫学区をみんなで見て歩き、明倫のマップづくりを行い、学区の現状と課題を整理したいと考えています。

明倫まちづくり委員会

連絡先：井上(三条町)電話 255-7926

町内探訪

第四回 姥柳町



「京都坊目誌」によれば町名起源、不詳、布袋山町と言ふ。慶長以来毎年、祇園會に布袋の像を安せる山棚を出す。

像は支那の梁の高僧・布袋師、名は契此(かいし)、長汀子(ちやうていし)と號す。明州泰北県(みんしゅうほくけい)の人(浙江省北東寧波にんぽう)。古くから遣唐使以来の対日貿易港として榮えた地。今の本尊は支那伝来の白青瓷に金銀青丹を施した洵(まこと)に優れた磁器であり高さ五寸の座像左右に唐子童子あり古来天魔厄神を除き寿福を増して子孫を繁栄せしめるものとして信仰されている。

八坂神社記録によれば明応九年(一五〇〇)に「十九番 布袋山四条坊門町と室町と間也」とあり、巡行に参加(参加) (ほつれき)以来飾山として行列に出す。天明八年山棚類焼し、像のみ傳へて今に存す、応仁の乱以前には淨妙山を出し「これはのち高麗屋町に移るが、更に布袋山を出している。廢絶後は長刀鋒の寄町として地ノ口米八斗を納め

た。

因云(よ)りていわく(祭日)七月十七日、二十四日とす、蛸薬師通を区域とし。同通以南松原に至るを十七日(先祭)とし、同通以北を二十四日(後祭)とす。共に氏子名町は名家の筆による屏風を陳列往来の人を觀覽せしむ、其の裝飾極て美を競ふ、都下一の大盛況とす。この記録をもつていかに姥柳町が京都祇園會の一大中心地であつた事が推察されよつ。

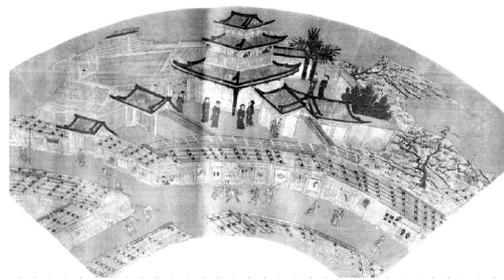
布袋山は大津祭、岐阜高山祭、小浜放生會、弘前ねぶた祭等全国に多くの影響を及ぼした。懸装(けんそう)品(びん)送、布袋、唐子喜遊図(か)は川島甚兵衛「名品図譜」に所収・所蔵されている。明代綴織(てい)のタペストリーの復元製作の日が訪れることを期待される。



十六世紀にはすでにヨーロッパでは知

られた町名であつた。耶穌會の宣教師たちが、しばしば、日本通信のなかで紹介し、南蛮寺の名で親しまれている会堂があつたことはあまりにも名高いことであつた。

オルガティエーノ、フロイスが中心となつて信長の庇護のもとに建設されたもので一



- 五七五 (天正
- (三)年に
- 着(き)一
- 五七六
- (天正
- 四)年献
- 堂式をお
- こなつて
- いる。狩
- 野元秀が
- えがいた

「京名勝図」扇面図によつて会堂の構造や庇護の一端をしのぶことが出来る。珊太満利亞(さんたまりあ)上人の寺とも呼ばれ京都におけるキリスト教と南蛮文化の中心となつた。

このことにより、この周辺の町家の生活と文化、美意識が広く深くなり山鉾町に渡来懸装品が多く輸入されることとなる。天正十五年(一五八七)九州征伐を終えた秀吉は宣教師追放故令を發し、キリスト教弾圧に転じ、南蛮寺もこのときに破壊され、ついにこの地には復興されなかつた。

朱印船貿易史権威 川島元次郎名著

「南国史話」 錢五の密貿易船の行方を尋ねて (川島義明蔵) 考え合わせ十六世紀「イリアス」図タペストリ一五枚 渡来の謎について考察すればまことに歴史とロマンに満ちた町である。最近北国新聞記事、十六世紀の南蛮寺二世紀の金沢城共通する「建築家 高山右近」時空を越えた二つの建物がよく似ている。金沢城の「三階建」「入母屋」「黒隔柱」と唯一共通するデザインと雰囲気京都の南蛮寺にみることが出来る。右近の巨大な遺産であると紹介されている。

元明倫小教頭松本利治先生(昭二七・四)「三三三在籍」大著「京都町名変遷史」には姥柳町は我国における西欧文化の中心であり京洛における先端的な存在であつた。明治(大正)元年、室町の大家吉田忠三郎家(吉忠(株)、藤井善七家(丸池藤井(株)、大店成宮喜兵衛商店、伊藤産業(株)(松坂屋)等が存在していた事が記されている。

昭和四十年代よりビル化に変貌その跡地にはテナントビル、和装呉服商社駐車場等になっている。来年(平成十六年度)七月には一時中断(七年間)していた飾山が新築マンション業者の御好意と援助により復興出来る事になった。この支援に対して甘受することなく、山鉾町として又、三十三基めの平成の山として再興することを待望するものであります。

(京都町衆文化研究所・川島義明 識)

明倫学区あの頃(二)の頃

地蔵盆

昭和三十年代の釜座町の地蔵盆はたいへんにぎやかなものでした。当時、釜座町は三十四、五世帯、人口約二百人程(現在六十人、マンシオン住民を除く)の町で、子供(小学生以下)の人数も大体四十人現在四人位いました。

一目目は町家にお地蔵様が飾られ、午前中にはお坊様の念仏があり、大玉が回ってくる頭をべこりと下げる大きな数珠回しなど、約三十分間の南無阿弥陀仏の念仏の間大勢の子供がべこりべこりしながら数珠を回す光景は今ではとても見られ無いものです。当時は子供の数が多く、表の間を貸してもらえた家でも子供が集まって遊んでいました。夜になると毎年恒例の子供の仮装大会が行われ、各家の大人たちは競って子供に色々な衣装を着せて登場させ、



三条通を烏丸通まで行進し、六角通を新町通までぐるりと回って町内に帰りました。一等賞にはスイカなどの景品が当たり、大人も子供も大興奮のイベントでした。

おやつの銅鑼もたいへん嬉しく音が聞こえると子供たちが飛び出してきて、おせんべいやラムネ、キャンディなどが皆に当たりました。人形劇や紙芝居があったり、手品をしたりして遊んだのを覚えて

います。近年の大人ばかりの中に僅かの子供たちを囲んでいる地蔵盆はなんとも寂しい光景ですが、マンシオンに住む子供たちの参加も徐々に増えつつあり、子供の行事として大事にしていきたいと思う今日この頃です。

文責 長谷川

明倫に住んで

三条町に住みはじめて三年半、現在では祇園祭(八幡山)や、まちづくり委員会、「明倫」新聞の発行に携わるようになりしました。

当初、この町に住むことを決めたのは交通の便が良いこと、祇園祭が身近に見られることが理由でした。

しかしマンシオンのオーナーさんのお誘いで祇園祭の手伝いをはじめました(元来お祭りたいすき人間ですが)、そしてこれを契機として三条町をはじめとして明倫学区の多くの「素敵な人」との出会いが出来、「明倫」新聞の発行までに携わるようになってしまいました(もの心ついて今まで地域活動などしたこともない私が・・・笑)。

これらの活動を通じて明倫が祇園祭は言うまでもなく多くの歴史、文化を有している町である一方、他の都市同様に景観、防犯、防災、少子高齢化など数多くの問題を内在している町であること、又、職を主とする人、住を主とする人、職住が一緒の人が混在する職住併存地域であり、明倫に対する思いも様々な考え方があることも実感しています。

私の場合は幸運でしたが、多くの人とっては(特に新住民の方)地域の情報を知らない、知ろうとしてもだれに相談していいかわからないというのが実情ではないでしょうか。

「明倫」新聞の発行に携わるようになった一つの理由も身近な話題、情報を少

しでもお伝えできればと思った次第です。この町に住んで良かったと思います。

三条町 岩本守司



スタッフ募集中!

明倫学区のさまざまな出来事や歴史を色々な角度からお伝えするために広い世代のスタッフを募集しています。世代を超えた学区民の愛読紙にするために是非ご参加をお願いします。資格は18歳以上で明倫学区にお住まいの方なら誰でも大歓迎です。

お問い合わせは広報委員会まで

・長谷川(釜座町)
231-2450まで

インタビュー

空手教室訪問

昨年八月から始まった空手教室ですが、小学二年〜大人まで男女十二人が登録されています。その方々に聞きました。

空手教室に行き始めたきっかけは

友人に誘われて行きました。

空手教室に行った感想は

本格的な正統派をマスターした先生だったので隠れたすごい教室だと思いました。肩こりが無くなったし健康にいいです。精神的に強くなった気がする。

ということでした。

毎週金曜日夜7時から8時半まで幼稚園の遊戯室で、組み手ではなく形と乱撃の基本形を行っています。

師範は市田昌生氏で、

現在全日本空手道剛柔会相談役・師範・錬士六段

剛柔流空手道拳正会師範
京都府府庁空手道部 師範

大日本武徳会 本部理事・京都支部理事・空手道の部指導者・錬士

の免許を持っておられます。

興味のある方は一度見学に行ってください。気持ちのいい汗を流してみてもいいでしょう。必見です。圧倒されること間違いなし！



きつずばあくinn明倫

昨年の十一月から始まったキッズパークですが、その第一回目から毎月参加しておられる衣棚町のお母さんに聞きました。

参加のきっかけは

町内のマンションの掲示板を見て興味を持ち同じマンションの住民の方と一緒に参加をしました。

行ってみて感じたことは

室内公園のようでも安心して遊べる場所でした。

元明倫幼稚園の前を通るたびに子供が「キッズパークー！」といって叫び、それだけ楽しみにしています。

雨が降っていたら家の外に出にくくないですか？

家の中のほうがうとうとして、出て行ってみんなと話せるほうがうれしいです。

同年齢の子供を持つお母さん方と話せてすごくうれしい、ということでした。

キッズパークは、0歳から幼稚園に行くまでのお子さんとお母さんの遊びの場です。

毎月第二火曜日朝十時から十一時半まで元明倫幼稚園内で保育士さん保健婦さんをお迎え、地域の主任児童委員たちがお世話をしています。たくさんのお母さんをお待ちしております。



明倫祭事委員会

中尾金次郎

六月二十二日に 明倫夜話で祇園祭を題材に二時間の座を持たして頂き、多数の来座下さり御礼申します。今年の祇園祭は天候に恵まれ素晴らしいでした。次に秋になると時代祭があります。それに付いてのお願いを致します。

明治初期、遷都による不況を活性化するため、桓武・孝明天皇を祭る大極殿を作って神宮とし、京都全市に平安講社を組織し、時代祭で祝い美術館の前に日本一の大鳥居を作りました。

その鳥居の補修が必要になって来ましたが、文化財遺産は、文化観光都市京都に必要です。

修理の募金の協力をお願いします

時代祭は十月二十二日で、明倫はその中核として毎年参加し、隔年に鎌倉時代の射手の乗馬を、来る平成十八年は、明倫学区で行列の準備をする大当番に為っています。

募金の受付は

- ・ なかお 中尾金次郎（錦室町西入る）
 - ・ 藤栄 近藤泰輔（室町錦上る）
 - ・ 京ボウ 大田龍一（室町三條下る）
- まで、宜しく願います。

お知らせのページ

このページは、明倫学区内の催しの予定やできごととはもとより、その他の地域のこともなどでも、皆さんが、明倫学区にお住まい・お勤めの方々に、是非ともお知らせしたいことを投稿いただくスペースです。お気軽にご投稿下さい。

その他、明倫のまちづくりに関するご意見などありましたら、どしどしご投稿下さい。また、この「明倫ニュース」に関するご意見やご希望もお寄せいただきたいと思います。

ご連絡先：長谷川 明（釜座町）（電話） 221-3737（FAX） 221-4406
Eメール kaigadou@mbx.kyoto-inet.or.jp

この秋の十一月十五・十六日

『まちなかを歩く日2003』開催！

明倫学区をはじめ、中京区内の九学区の皆さんなどが参加している「歩いて暮らせるまちづくり推進会議」によるまちづくりイベント「まちなかを歩く日」が今年も開催され、十一月の十五日（土）、十六日（日）の両日を中心に各地で多彩な催しが行われます。

今年も明倫学区では「京都芸術センター」を拠点に、次のような楽しいイベントを企画しています（予定、以下のイベント名は仮称）。

「柳水の茶会」

昨年好評だった茶会を、今年も学区内の皆さんの手で行います（同時に高倉小の子どもたちによる生花を展示）。

場所・日時：芸術センター大広間
土曜 日曜



子どもたちによる生花（去年）

「明倫夜話の座」

座長 西村大治郎氏
場所・日時：芸術センター（土曜）

「明倫コンサート」

婦人会コーラス、京都産業大学ケリークラブ、琴・三味線演奏、ポップス演奏など

場所・日時：芸術センター講堂（土曜）



婦人会によるコーラス（去年）

「きものジャズコンサート」（織商青年部と共催）

事前公募した四百名程度（一回あたり約二百名）の人が対象（和服を着ることが条件）

場所・日時：芸術センター講堂（日曜）

「銚の道プロジェクト展示」（立命館大学と共催）

場所・日時：芸術センター（土曜 日曜）

「室町蚤の市（朝市）」

手づくり品、京野菜を中心に
場所・日時：室町通り周辺（土曜 日曜）

「明倫バザー」

明倫学区有志により、室町蚤の市の中で行います。
場所・日時：室町通り周辺（土曜 日曜）

「ヒトオリ」

芸術系の学生さんグループによるアートインスタレーション
場所・日時：室町通りを中心に（土曜 日曜）

多数の皆様のご協力とご参加をお待ちしています。

明倫まちづくり委員会一同

ステージユール

芸術センター

京都ビエンナーレ2003

京都芸術センターの開催による、京都ビエンナーレでは、現代美術展、演劇、映像、舞踏、狂言、日本以外のアジアの伝統芸能など、様々な領域に渡る展示や公演が行われます。国内はもちろんクロアチア、スロベニア、ブラジル、中国、フランス、アメリカその他の地域からアーティストが訪れます。展示や公演のほかにビエンナーレのメインテーマ「スローネス」をめぐるレクチュア、アーティスト・トーク、シンポジウムなどが開催され、それらとおしてこの世界のさまざまな問題について考える機械を持つことを重要な目的としています。

会期 2003・十月四日(土)

～十一月三日(月・祝)

会期中無休

テーマ 「スローネス…(速さ)の中に(ゆっくり)を創り出す」

主催 京都芸術センター

- スローネス会議 10/4～10/5

国内外の出演アーティストを招いて、ビエンナーレのメインテー

マ「スローネス」をめぐるレクチュアや討論会

- 美術展時・パフォーマンス

10/4～11/3 センター他
芸術センターを中心に京都のいくつかの場所において室内や野外でのイベントパフォーマンス

- 演劇公演 10/4～10/1

3 センター講堂
全国公募オーディションの俳優によるプロデュース公演。
演出：高瀬久男(文学座)
脚本：鈴江俊郎(劇団八時半)

- 伝統芸能公演 10/25～1

1/3 センター
伝統芸能の新たな創造。実験を指した作品の上演。

- ダンス公演 日時未定

ブラジルの舞踏グループによる作品「アリの目の」の公演予定。

お問い合わせ

京都ビエンナーレ2003事務局
〒604 8156

京都市中京区室町通蛸薬師下がる
山伏山町546 2

京都芸術センター3F

TEL075 257 5644

FAX075 257 5666

<http://www.kyotoennale.com>

高倉小学校

- 九・二五(土) 運動会

九・二六(金) 前期授業終業式
(本年度から三学期制のため)

九・二九 九・三十 秋休み

十・一(水) 後期始業式

十・二(木) 稲刈り(山科)

十・八(水) 秋の遠足

十・二一、十・二二 山の家四年

十・二九(水) 高倉子供まつり

十一・二(木) 大文字駅伝 予選

十一・十七(水) ジャンボ掃除

十一・二十二(月) 冬期休業

一・七(水) 書き初め

一・十六(金) 避難訓練

一・二七(火) 音楽観賞会の年

二・四(水) 授業参観

二・十(火) スキー教室

二・二三(金) 入学説明会

三・九(火) 六年を送る会

三・二二(月) 大掃除

三・二三(火) 卒業式

三・二四(水) 修了式

三・二五(木) 春期休業

明倫区民運動会

秋 毎年学区民三百人以上が参加される恒例の運動会の季節となりました。明倫の運動会の特色は、すべての競技が個別参加で、自分の出たい競技にエントリーできることです。

町内で回覧板が回っています。九月二十日まで受付けます。

一世帯一枚プログラムについているラッキーカードで見学者の方々にも豪華プレゼントがあります。いっぱい参加でいっぱい景品をゲットしましょう！

日時 十月十二日(日)

競技開始9時30分

雨天のとき十月十三日

場所 元明倫小学校(現京都芸術センター)

(詳しいお問い合わせは百足屋町北川二二一 三七一五まで)



編集後記

「明倫」も五号発行を迎えました。当学区にはまだまだ数多くの話題が埋もれています。これからも徐々に紙面を充実させていきたいと思えます。現在本新聞は数名で発行していますが、まだまだ人出不足です。一緒に新聞づくりしませんか？

岩本